

全日本フェンシング選手権 男子エペ

大谷 殊勲の準優勝！



銀メダルを獲得した大谷

日本代表選手ら強豪が日本一の座をかけて争う全日本フェンシング選手権大会(個人戦)が9月14〜16日、静岡県・沼津市総合体育館で行われた。本学フェンシング部員が奮闘するなか、男子エペの大谷謙介(経営4・岩国工高)が殊勲の準優勝。女子エペの齋藤華南(経済4・秋田商高)が5位の成績に輝いた。

大会初日に行われた男子エペ。大谷は、トーナメントを順調に勝ち進んだ。準決勝で15-14の接戦を制すると、決勝ではパリオリンピック銀メダリストの山田優選手(山一商事)と対戦。10-15で敗戦するも、優勝は逃したが、のびのびとプレーができた」とポジティブに振り返った。

2日目には齋藤が出



準決勝で突きが決まり、ガッツポーズをする齋藤
撮影＝藤林利英(文1)

女子エペ 齋藤は5位入賞

場。3回戦では延長の一勝負までもつれ込んだが、ナショナルトレーニングセンターでよく練習する相手ということもあり、「駆け引きをさせてくれなかった」と分析。今後に向けて「個人戦でも団体戦でも結局戦うのは自分。自分の土俵に相手を上がらせるくらいの気持ちでいきたい」と力強く意気込んだ。

高校生から社会人と幅広い年代の選手と対した今大会。この経験を糧に11月の全日本学生個人選手権大会をはじめとした大会でどのように戦っていくのか、今後も目が離せない。

(山口由結・文4)

決勝戦を制した棚内の豪快なすくい投げ



棚内が優勝

75kg未満級

専大勢初の栄冠



専大勢初優勝を遂げた棚内



2年連続準優勝のスフバット

135kg未満級 スフバット 2年連続準優勝

全国学生相撲個人体重別選手権大会11月14日、大阪府・堺市大浜公園相撲場

専大からは、東日本学生体重別個人戦で出場権を得た4人が出場。75kg未満級に出場した棚内陽向(商3・弘前実業高)が初優勝を遂げた。1923年創部の相撲部に初の栄冠をもたらした。

135kg未満級ではアリオンエルデネ・スフバット(商4・鳥取城北高)が2年連続で準優勝に輝いた。

1回戦で西日本学生王者に勝利した棚内は、その勢いのまま駒を進めた。迎えた決勝戦は東日本学生王者の日大・清宮健史選手と対戦。深く集中して土俵に入ると、立ち合いから激しい相撲を取り、すくい投げで制した。最後まで攻めの姿勢を貫き、東西の学生王者から金星をあげた棚内は決勝戦を振り返り、「相手に得意な相撲を取らせずに終わらせることができ、本当にいい相撲だった」と喜びをかみしめた。

11月に行われる全国学生相撲選手権大会に向け、「追われる身になるため、その自覚を持ちつつ自信も持って、試合に臨んでいきたい」と更なる勝利を見据える。

(中島胡春・ネット情報2)

女子 春秋連覇

26年ぶり

秋季関東学生卓球リーグ戦＝9月9～24日、渋谷区・代々木第2体育館ほか



立川の勝利で秋季リーグ優勝を決め、歓喜に沸く部員たち

殊勲賞・優秀選手賞に首藤

女子が春季と同様に7戦無敗でリーグ戦を終えて、2季連続45回目の優勝。26年ぶりの春秋連覇という快挙を成し遂げた。

最終戦は、中大との全勝同士の対決となった。一時は王手をかけられ危機に陥ったが、6番手の陳ケ尾真子(文3・和洋国府台女子高)がフルセットの熱戦を制した。最終7番手の立川朋佳(経済3・進徳女子高)がスリート勝ち。3年次生個人では、首藤成美(文1・希望が丘高)が殊勲賞と優秀選手賞に選ばれた。

また、男子は優勝の可能性を残して最終日を迎えたが、日大に敗戦。当該校間の対戦成績の結果、4勝3敗の5位に終わった。

4年間の通算成績で贈られる特別賞を、男子の野田颯太(文4・育英高)、女子の出澤杏佳(文4・大成女子高)が獲得した。

(河上明来海・文411写真)



最終・中大戦でフルセットの熱戦を制し、チームに勢いをもたらした陳ケ尾